

リハセンだより



第55号

「認知症」について思う

センター長 小畑 信彦

センター長の小畑でございます。この便りに眼を通していただき有難うございます。

本日は、認知症についての当センターの活動について少しご紹介するとともに、秋田県におけるこれからの認知症対策をどう考えるべきかについての個人的意見を述べさせていただきます。

高齢化日本一の秋田県にとり、認知症対策は社会全体で取り組むべき大きなテーマとなります。その中で、当センターは県立病院として認知症医療へ積極的に取り組んでおり、その一環として平成24年に認知症診療部を設立しました。それに専念する医師2名を中核に、更に精神科医数名も同部に所属し、2つの認知症専門病棟を運営しております。更に、昨年秋からは県の認知症疾患医療センターの指定も受け、相談業務等に関してもそれに専念するケースワーカーを配置し、県民や介護施設等からの問い合わせ等に対応しております。

しかし、これからの秋田県を考えた場合、当センターだけではあまりにも不十分と思います。秋田県の面積は広く県内を移動するにも結構時間がかかります。医療分野だけに限って考えても、我々のような地域型の認知症疾患医療センターは県北、中央、県南の3カ所に置くべきでしょう。少なくとも、当センターに加えて県北に1カ所は必要です。身体疾患へ積極的に対応出来る、いわゆる総合病院の機能を持つセンター（基幹型）を中央に1カ所は持つべきでしょう。各地域で困った県民が気軽に相談し医療を受けられるような体制が求められます。

更に付け加えると、認知症対策は医療・介護面以外への配慮や対策も必要だろうと思います。事実関係について十分にはわかりませんが、高齢者の失踪

はもとより、振り込め詐欺の被害、高齢者が関わった交通事故、高齢者世帯の失火による火事などは認知症が関与している可能性がある印象を強く持ちます。このような犯罪被害、事故等に対して当事者達を守るためには、啓発等の対応はもちろんですが、時にはご本人達を保護するために権利の部分的制限も必要になるのではないのでしょうか。そのためには、対象の人達について公正で一貫した医学的評価を求められる場面が出てくるかもしれません。上記の様な形で県内の認知症診療体制を整備することは、直接的に医療を充実させるだけでなく、間接的に社会の混乱と当事者の人達の苦痛を軽減することにつながるのではと想像しております。

上記のような事をぼんやりと考えながら毎日の診療を行っております。これからも、皆様から幅広くご利用いただくことを願っております。今後ともよろしく願いいたします。



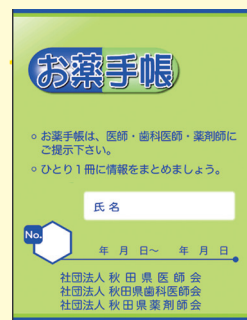
本年8月23日開催 第88回全国花火競技大会 大会提供花火

薬剤科

お薬手帳を活用していますか？

「お薬手帳」は医療情報を開示するという性格を持っています。それでは何が記載されているのでしょうか？

調剤年月日・医療機関名・お薬の名前・飲み方・調剤薬局名・お薬の注意点・ジェネリック医薬品か否かなどが記載されています。



●どんなことに役立つの？

飲んでいるお薬の情報を的確に伝えることができます。お薬の重複投与やよくない飲み合わせを未然に防ぐことができます。類似薬による副作用の再発を防止できます。

●活用法は？

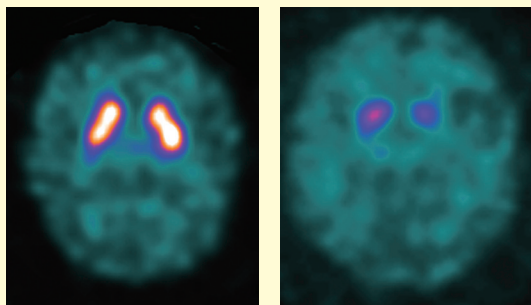
日々の体調の変化や気になったこと、医師や薬剤師へ相談したいことなどを書いておくと便利です。旅行先や外出の時に持ち歩くことで緊急の時などに、今飲んでいるお薬の情報を正確に伝えることができます。

●お薬手帳は「医療機関との連絡帳」です。

医療機関を受診する際は必ず持参し、医師・歯科医師・薬剤師に提示して下さい。当センターでもお薬手帳へ貼るシールをお渡ししています。

放射線科

核医学検査について



核医学検査とは微量の放射性医薬品を使って病気の有無を調べる検査方法です。リハセンでは脳血流や心臓の検査を主に行っています。一月から新しい薬剤による検査を始めました。レビー小体型認知症、パーキンソン症候群の診断に使用しています。正常の場合、左右対称に三日月型に薬剤が集まります。右画像では集積低下、形の変化が認められます。

検査科

採血を行う上での注意

採血を行う際、食事を抜いてきてくださいと言われることがあるかと思いますが。全ての検査に支障を来たす様なことにはなりません。血糖や中性脂肪など食後には明らかに数値が上昇する検査もあります。しかしながら、食事をした時間と採血した時間が明確であれば、食後の検査であっても診断や治療に有用なこともあります。食事をとってきてしまった際は、診察時、主治医に報告していただいたほうがよいかと思われます。



リハビリテーション科

ケアシリーズ (研修会)を 開催します



平成25年度 リハ科ケアシリーズ より

平成26年度 ケアシリーズ 知っておきたい高齢者のケア ー排泄についてー

予定プログラム

日時：平成26年10月24日(金) 13:30～16:30

会場：リハセン 講堂

- | | |
|--------------------|------------|
| 1. 排泄トラブル～そこが知りたい～ | 佐山副センター長 |
| 2. 高齢者の排泄ケア | リハ科病棟看護師 |
| 3. 認知症患者の排泄ケア | 認知症看護認定看護師 |
| 4. トイレ動作と環境調整 | 作業療法士 |
| 5. 栄養と排泄について | 管理栄養士 |



平成25年度 リハ科ケアシリーズ より

今年度もリハビリテーション科ケアシリーズ(研修会)を10月に当センターで開催することになりました。

今年は、高齢者の排泄ケアについて医師・看護師・栄養士・作業療法士が、事例等を交え、お話する予定です。

多くの方にご参加いただき、意見交換などを通して、互いの現場に活かせる研修会になれば、と考えています。皆様のお越しをお待ちしております。

平成26年度

リハセン講演会

日時 平成26年11月30日(日)
14:30～16:30 (14:00開場)

場所 秋田ビューホテル
4F 飛翔の間



- 講演 ①「精神科医が認知症介護を始めた！
～医師としての目、家族としての想い～」
秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
センター長 小畑 信彦
- ②「リハビリも予防の時代
～健康維持と生活習慣病予防のために～」
秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
副センター長 佐山 一郎
- 紹介展示 ロボットスーツHAL、認知症相談 ほか
- 対象 一般の方・医療福祉関係者等
- 参加費 無料 **その他** 手話・要約筆記あり

看護部

世界に先駆け超高齢社会へと突入した日本の中でも、全国一高齢化率の高いこの秋田において、治療法が未確立であり、最大の原因が加齢である認知症に対して、昨今関心が寄せられています。

昨年10月、当センターが秋田県唯一の認知症疾患医療センターとして始動しました。県の中核機関として、認知症についての医療のみならず看護にも注目が集まり、質の高い看護・ケアが期待されています。

“認知症看護の独自性は何か言語化したい”

“質の高いケアを提供するために必要な知識・技術を得たい”

そう考え、昨年日本赤十字秋田看護大学に新設された、認定看護師教育課程・認知症看護認定看護師コースを受講させて頂きました。半年間に及ぶ座学や実習は想像以上に厳しく、それまでの看護経験の未熟さや知識不足を痛感し、逃げ出したくなることもありましたが、応援してくれた病院、快く送り出してくれた上司や同僚、学習時間確保や東京への長期滞在に協力してくれた家族のことを思い出し、修了まで頑張ることができました。

認定教育を受ける中で、私が考えた認知症看護とは「認知症の方の尊厳や意思を尊重し、権利を擁護し、できる能力の発揮を助け、多角的・総合的なアセスメントの上、エビデンスをもってケアすること。人的環境を含む療養環境やコミュニケーションを大切に、生命や生活の質(QOL)向上のため、安全・安心・安楽を目指すこと。」です。そして私の役割は、この認知症看護を実践し、伝えていくことと認識しています。



リハセンにおける認知症看護・ケアはまだまだ発展途上です。

私達のこれまでの経験を財産に、確かな知識を得て、新たな知見を取り入れる柔軟性と高い倫理的感受性を持つことが認知症看護・ケアの質の向上につながります。

さて私は、今年5月に認定審査を受け、7月に合格が確定し、ようやく認知症看護認定看護師としての一歩を踏み出したところです。

まだまだ未熟ですが、皆さんとともに成長し、認知症の方やそのご家族のため、そしてリハセンの認知症看護の発展に寄与すべく、今後も学びを深めながら邁進していきたいと思えます。

認定看護師の役割	認知症看護認定看護師としての活動内容
看護実践	<ul style="list-style-type: none"> 病棟における看護実践（家族指導を含む） 認知症疾患医療センター・看護部門による講演や講義
相談 (コンサルテーション)	<ul style="list-style-type: none"> 主に看護職からの認知症看護に関わる相談に対して、その答えを共に考え、相談者が主体的に実践できるようアドバイスなどを行うこと 相談体制の構築
指導 (プレゼンテーション)	<ul style="list-style-type: none"> 主に看護職に対して、研修会や学習会などで知識・技術の伝達を行うこと（院内外） 認知症看護に関わる教育体制の構築

感染管理認定看護師＝ICN (Infection Control Nurse) とは？

院内感染の効果的な予防及び管理を実践し、自施設に合った感染プログラムを立案すること。



活動内容

平成 25 年 8 月に感染対策室開設。手指衛生及び尿留置カテーテル関連感染サーベイランスを実践、結果をリンクナースにフィードバックすることでケアの介入・見直しをしています。また全職員対象の研修会年 2 回開催、さらに各部署や外部委託職員に対しての研修会を随時開催しています。その他あらゆる部門の職員から感染リスクのアセスメントに関する相談に応じております。

リハセンでの役割

精神科・リハビリ科に特化した施設です。特に精神科領域においては、他領域同様の感染対策は困難な状況です。特殊性に即した感染プログラムの立案が重要な役割であると認識しています。職員および患者・家族に安全で安心な医療環境を提供する役割を担っています。



コラム

精神科では、初診の患者さんは予約制をとらせていただいております。診察では、こういった症状が、いつごろから、どのような状況で、という一般的な問診、これまでから現在に至るまでどのような病気になったことがあるか（これを既往歴と言います）、家族の中に同じような症状を経験した人はいないか（家族歴と言います）といった他の科でも行う問診のほか、生まれてから現在まで、どのような生活を送ってきたかを問う、精神科特有の生活歴の問診が行われます。また、精神科であつかう疾患ではご本人が感じていることと、周りの方々が感じていることに食い違いがあることが多くあるため、それぞれが感じていることをお聞きすることもあります。

これら多くの情報を得るために、初診の患者さん 1 人あたりに約 1 時間（場合によってはこれ以上の時間を要することもあります）をあてているため、初診の患者さんは 1 日 3 人までとさせていただきます。診察をご希望される方はお電話でご予約ください。希望の日時のほか、状態・状況もおうかがいたします。新患担当医の専門性も考慮して日時を決定いたします。

なお、急を要する状態・状況の患者さんに関してはこの限りではありませんので、ご相談ください。

第7回認知症ケアシリーズ「講演会」

平成26年7月11日（金）にリハビリテーション・精神医療センター講堂にて第7回認知症ケアシリーズ「講演会」を開催しました。当講演会は地域との連携が欠かせない認知症医療において、県内の介護施設職員を対象として、当センターの取り組み紹介と問題点の共有を図ることを目的に毎年開催しています。

今回は「アルツハイマー病」をテーマに医師、看護師、理学療法士、管理栄養士による講演を行い、当日は169名の方の参加がありました。当日行ったアンケートの中では「家族が介護や受診に消極的」「行動・心理症状（BPSD）の対応に苦慮している」などの意見もあり、今後の研修会の企画や連携を図って行く上で問題点を共有する良い機会になったと思います。

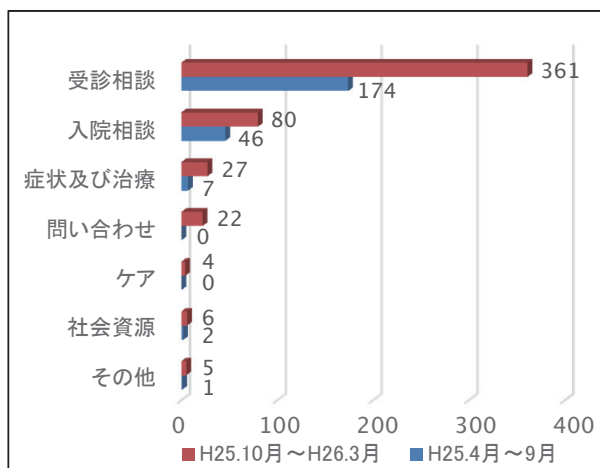


秋田県認知症疾患医療センター相談状況 (H25.10月～H26.3月)

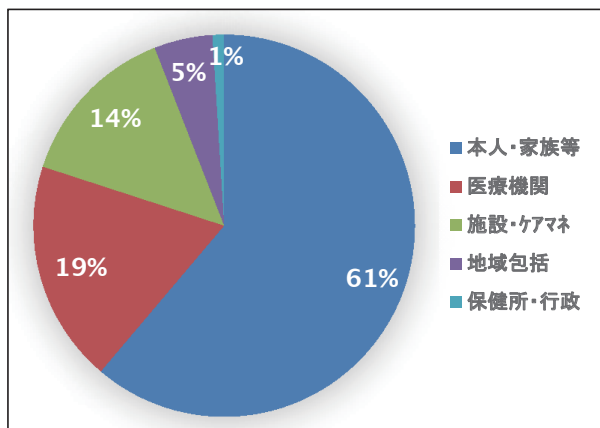
相談件数－505件
(内 電話－442件、面接－38件、FAX－25件)

開設後の相談件数は、開設前に比べ約2倍に増えています。今までと同様、認知症症状が増悪し、在宅での介護困難や施設での対応が困難となり、相談に至るケースもみられます。しかし、もの忘れが気になって早めに受診したい、認知症の治療中であるが認知症疾患医療センターで再検査してもらいたいとの相談も多くなっています。認知症疾患医療センターが開設されたことにより、早期発見・早期治療に結びついていると思われます。また、認知症看護認定看護師・認知症ケア専門士によるケアの相談も行っていますので、ケアに対して不安や心配のある方がいましたら、気軽にご相談頂けたらと思います。

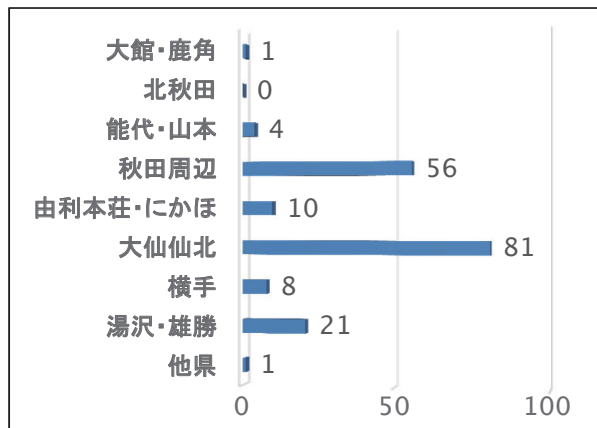
1. 相談内容（開設前との比較）



2. 相談元



3. 新規外来受診者居住地



＊ 当センターの受診予約・入院申込みについて

当センターのリハビリテーション科、精神科、ものわすれ外来は全て予約制になっております。現在受診している医療機関がある場合は紹介状をご準備いただき診療予約をしたうえで来院して下さい。

また、当センターでは FAX による入院予約申込み（リハビリテーション科のみ）も受付けております。初めて FAX による入院予約を希望される場合は「医療相談連携室」までご相談下さい。

（外来受診・FAX 入院予約に関する申し込み・問い合わせ先）

018-892-3751（代表） 医療相談連携室まで

＊ リハセン抗加齢ドック

脳と生活習慣病予防ドックを兼ねたユニークな検診を行います。体力やバランス、敏捷性など運動能力評価を行い、加齢や病気の影響を診断します。検診とその検査結果の説明は同日中に担当医から行われます。

検査日：毎週金曜日 午前 8 時 30 分～午後 2 時まで
（予約制）

抗加齢ドックのご予約、お問い合わせは

018-892-3751（代表） 医事課まで

検査内容

体組織・超音波骨密度・頸部エコー、
頭部・腹部 MRI（内臓脂肪測定、
胸部 X 線、血液・尿・心電図・肺機能、
PWC（体力・持久力）・バランス
検査、敏捷テスト

外来診療担当表

外来診療受付時間
午前 8:30～11:00



● リハビリテーション科・もの忘れ外来・高次機能障害外来診療担当表

	月	火	水	木	金
リハ外来(新患)	荒巻 晋治	横山 絵里子	佐山 一郎 下村 辰雄	佐山 一郎	佐山 一郎
リハ外来(再来)					
もの忘れ外来	佐藤 隆郎 (精神科)	下村 辰雄 (リハ科)	佐藤 隆郎 (精神科)	下村 辰雄 (リハ科)	精神科医師
高次脳機能障害外来					下村 辰雄 (リハ科)

● 精神科外来診療担当表

	月	月	水	木	金
新患	①鎮西 祐美	①小野 太輔	小畑 信彦	①伏見 雅人	倉田 晋
	②兼子 義彦	②倉田 晋		②須田 秀可	
再来 1	倉田 晋	小畑 信彦	兼子 義彦	高橋 祐二	兼子 義彦
再来 2	小野 太輔	高橋 祐二	須田 秀可	倉田 晋	小畑 信彦
再来 3	須田 秀可	佐藤 隆郎	鎮西 祐美	鎮西 祐美	小野 太輔



秋田県立リハビリテーション・精神医療センター(リハセン)

秋田市からは車が便利!!
秋田中央IC～(協和IC経由)～病院玄関まで17分以内

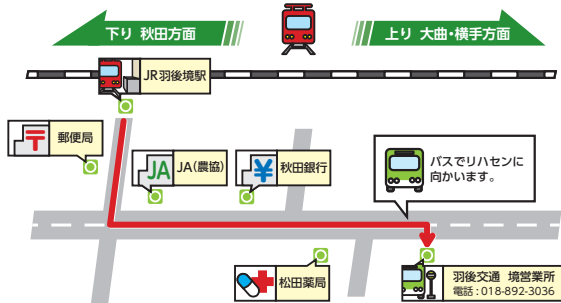


●電車とバスでリハセンに来るには

平成26年4月現在



1. JR奥羽本線、羽後境駅で下車。
2. 徒歩で羽後交通境営業所に向かいます。(約3分)
3. 羽後交通境営業所から淀川線でリハセン経由「福部羅行き」に乗ります。
4. 羽後交通境営業所からリハセンまで約10分。リハセン玄関前のバス停で下車。



バス時刻表 (平成26年4月1日現在)

淀川線 (境～協和小学校～リハビリセンター～中逢田～下川口～福部羅)			
境営業所	リハビリセンター	リハビリセンター	境営業所
発	着	発	発
8:10	8:20	—	7:52
9:10	9:20	—	7:52
10:20	10:30	9:18	9:28
▲11:14	▲11:30	9:25	9:35
12:20	12:36	11:28	11:38
▲14:15	▲14:31	12:28	12:44
15:15	15:31	13:36	13:46
16:15	16:31	15:36	15:46
17:20	—	16:36	16:46
▲18:34	—	17:36	17:46
—	—	18:36	18:46

▲印は日曜日・祝日運休

所要時間と料金

JR上り	JR下り	バス
秋田駅～羽後境駅 約25分 運賃500円	大曲駅～羽後境駅 約24分 運賃410円	境営業所～リハセン前 約10分 運賃320円

タクシーをご利用の場合

小山ハイヤー 018-892-3049 など

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター診療情報

診療科目：リハビリテーション科、精神科、放射線科
診療日：月～金（祝日・12月29日から1月3日を除く）
受付時間：午前8:30から11:00まで

病床数：一般病床:50床、療養病床:50床、精神病床:200床

●センターの特徴：365日毎日リハビリ訓練
脳ドック・物忘れ外来・精神科ショートケア
画像診断(CT・MRI・SPECT)
日本医療機能評価機構認定

電話相談のご案内

リハセンへの受診や入院に関することについて、
電話での相談に応じております。
お気軽にどうぞ。 電話 018-892-3751

発行

秋田県立リハビリテーション・
精神医療センター

〒019-2413

秋田県大仙市協和上淀川字五百刈田 352

発行責任者 小畑 信彦